

新晃工業

新築・更新 確実に取り込む

スマートAHU堅調に推移



稲川 健部長

空調機器総合メーカ

1、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社＝大阪市北区南森町1-4-5）は、中央熱源式空調システム向けにエアハンドリングユニット（AHU）、ファンコイルユニット（FCU）など二次側トップメーカーとして幅広い空調機器を供給する。昨年5月、市場に投入したコ

ンパクト型空調機「AJEC型」は、主として一般オフィスビルでの需要を手堅く取り込み、工場や商業施設向けのブラクファンシリーズも前期、堅調な推移を示した。

営業開発部・稲川健部長は「前期は新築需要と更新需要が概ね半々の状況。この傾向は今期も大きくは変動しないとみています。ただし、案件数は前期と比べて増勢基調にあり、今期は新築物件を確保しながら、更新需要を確実に取り込み、実績につなげていきたい」と

話す。

「AJEC型」は、次世代空調機の新コンセプト「Smart AHU（スマートAHU）」の初号機として市場に投入された。スマートAHUは「エネルギーを賢く効率的に使いながら、快適な環境を提供する」とのコンセプトに基づき、人・建物・社会・地球に優しい空調機を目指すという。ファンの駆動方式にダイレクトドライブを採用したことで同社従来機種と比べて設置床面積で75%、容積で80%に省

スペース化を実現。高効率・省エネの永久磁石を使用したDCブラシレスモータに、一般的な空調機に必要なインバータやノイズフィルターなど各種部品を一体化したECモータの採用により、さらに小型・軽量・省メンテナンス・省スペースを実現しながら、高機能化を図った。さらに、高効率でファンが常に駆動するよう、ファンのプレード幅や外径サイズを現場ごとに最適設計することで既製品のファンを使う空調機と比べ、ランニングコストの大幅な低減を可能にするなど優れた諸特徴を備えている。

セントラル方式は、リニューアル時、別方式への変更に伴う工事などの負担が発生せず、全体としてコスト面での優位性を持つ。熱源や二次側・補器類などユニット単位でのパージョンアップを図りやすいといった諸点が特徴。国内では1980年代から90年代にかけて竣工・稼働した地域冷暖房、大規模ビルの空調・冷熱設備が更新時期にあり、ストック需要を形成。まず劣化診断を切り口に、全体予算に応じた提案を行い、それらの更新需要を適確に取り込んでいく（稲川部長）のと並行して、「当社製中・中長期の保全計画に組み入れていたがための提案営業（同）」にも注力する考え。